

『経済科学』 投稿・執筆要綱

2026年 7月

『経済科学』 編集委員会

『経済科学』に論文を投稿する場合、次の点に御注意ください。

投稿資格

1. 教員論文

経済学研究科内教員（助教以上）。

2. レフェリー論文

経済学研究科助教、名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程に在籍する者、同研究科修了者または満期退学者で科研費申請が認められる研究機関に就職していない者、名古屋大学大学院経済学研究科を研究機関とする日本学術振興会特別研究員。また、共著の場合は、共著者のいずれもが投稿資格を満たしていることが必要です。

3. ノンレフェリー論文

上の2.の投稿資格を有する者に加えて、編集委員会が特に認めた者。ただし、投稿に際しては、指導（受入）教員もしくは、名古屋大学大学院経済学研究科の講師以上の教員の承認を必要とします。また、共著の場合は、共著者のいずれもが投稿資格を満たしていることが必要です。

4. その他

動向、書評などについては、編集委員会に問い合わせてください。

投稿上の注意

1. 投稿論文の採否は、編集委員会が決定し、できるだけ速やかに連絡いたします。投稿論文の採否の決定にあたり、審査制度（レフェリー制度）を活用します。なお、ノンレフェリー論文の投稿も可能ですが、一定の条件を満たす必要があるため、希望者は編集委員会に問い合わせてください。

2. 他誌、論集等に掲載されたもの、掲載される予定のもの、投稿中（投稿予定も含む）のものは、本誌の論文として投稿することを認めません。つまり、二重投稿はできません。

3. 所定の投稿論文申込書、論文原稿、カバーシートを事務局まで郵送または持参してください。

4. 審査論文については、掲載時に、受付日、採択決定日を明記します。

5. 新規論文または修正論文の受付から1年以上経ても審査結果を投稿者が得られない場合、審査中であっても取り下げることができます。

6. 『経済科学』著作権は著作者に帰属しますが、経済学研究科は著作物の発行に関する権利を有し

ます。なお、経済学研究科は、名古屋大学経済学研究科ホームページおよび名古屋大学学術機関リポジトリにおいて著作物を公開します。また、関係諸機関からの電子媒体での収集に応じることとします。

また、著者が『経済科学』に掲載された自分の論文の全部または一部を他の著作物に転載等の利用をしようとする場合は、『経済科学』編集委員会の承認を得て、その論文が本誌に掲載されたものであることを明記(出所明記)する必要があります。

7. 編集委員会は投稿および審査に関する個人情報保護に留意いたします。

執筆上の注意

1. 使用言語

日本語あるいは英語に限ります。ただし、引用あるいは参考文献については、言語の制限はありません。

2. 論文原稿

(1) 和文原稿は、A4サイズ(40字×30行/1頁)で24枚までとします。英文原稿はA4サイズ、ダブルスペース(28行/1頁)で40枚までとします。原稿枚数には注、図、表、文献リスト等の全てが含まれます。

(2) 原稿の第1ページ目には、和文・英文原稿ともに論文のタイトル、アブストラクト(英語)、キーワード(英語)のみを明記してください。(氏名・所属・目次は付けないでください。)

(3) アブストラクトは、和文・英文原稿とも、英文200語以内でまとめてください。

(4) キーワードはアブストラクトの下部に4～5個を英語で記載してください。

(5) 英文原稿の場合、2ページ目には英文目次を記載してください。本文は3ページ目から開始してください。

(6) 和文原稿の場合、2ページ目は和文タイトル・英文タイトルと和文要旨、3ページ目に和文目次を記載してください。本文は4ページ目から開始してください。

(7) 本文からページ番号を入れてください。

※オンライン付録について

和文・英文原稿に収まらない内容は、別添資料としてオンライン付録にまとめて提出することができます。

オンライン付録は10ページを限度とします。

オンライン付録のフォーマットは自由ですが文字サイズは10.5ポイント以上、1ページ当たりの行数は40行以内とします。

掲載が決まった原稿のオンライン付録は、著者が作成したものがそのまま名古屋大学のリポジトリに登載されます。

3. 提出書類および提出先

- | | |
|-----------|-----|
| ・ 投稿論文申込書 | 1 部 |
| ・ 論文原稿 | 1 部 |

提出先 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院経済学研究科

4. 表記法

- (1) 日本語の場合は明朝体（11pt）、英語の場合はTimes New Roman(11pt)を用いてください。
横がき、新かなづかい、新字体使用を原則とします。常用漢字を中心とし、あまりにむずかしい漢字は避けてください。
- (2) 句読点は日本語の場合、カンマ（,）と句点（.）とし、英語の場合、カンマ（,）とピリオド（.）を使用してください。
- (3) 傍点は該当する文字の上に付してください。
- (4) 和文・漢文では、引用文にはかぎ括弧（「 」）または二重かぎ括弧（『 』）を使用し、クォーテーション（‘ ’）またはダブルクォーテーション（“ ”）は用いないでください。
- (5) 区切りの付け方は、大区切り（節）はローマ数字（I., II., III.・・・），中区切り（小節）はアラビア数字（1., 2., 3.・・・），小区切りは両側パーレン（（1），（2），（3）・・・），小区切りの内訳は片側パーレン（（1），（2），（3）・・・）としてください。

5. 図・表の作成

- (1) 図・表の大きさは、以下の4つのうち1つを指定してください。①1／4ページ（和文；517字，英文258語分），②1／2ページ（和文；1035字，英文517語），③1ページ（和文；2070字，英文1035語），④見開き2ページ（和文；4140字，英文2070語）。ただし，編集上やむを得ない場合、図表の大きさが変更されることがあります。
- (2) 図は本文中または別紙にこれを描き，希望サイズを必ず書き添え，通し番号・題目をつけ，本文中にその挿入箇所を指定してください。特に正確を期する図にあっては，グラフ用紙に作図し，その原図をご提出ください。
なお，複数の図でも，1カ所にまとめて1個の図として取り扱うことができる場合がありますので，工夫してください。
- (3) 図・表には注・出典等を明記してください。

6. 数式

- (1) 数式を1行につめすぎないでください。
- (2) 複雑な添え字(suffix)はつとめて避けてください。
- (3) ギリシャ文字には青丸をつけて区別し，ベクトルはゴシック指定をしてください。
- (4) 変数はイタリック表記を原則とするので，校正の際は留意してください。
- (5) 数式番号は，アラビア数字の（1）から始めた連番とし，右端に記載してください。

7. 注

- (1) 注は、論文末にまとめて列記し、本文中の当該箇所の右肩に通し番号をうってください。
また、注番号には片側パーレン（例えば１），２）のように）をつけてください。以下を参照してください。

（本文）

かつてウエイク¹⁾ がするどく主張したように、伝統的な組織論²⁾ では……………

（論文末）

注

1) Weick, K.E. (1979), pp.10-15.

2) ここでいう伝統的な組織論とは、通常分類とは異なり……………。

- (2) 論文末に参考文献を掲げない場合、次のようにしてください。

初出の文献は、著者名、書名、出版社名、出版年次、引用頁の順で記述してください。

再出の場合、同前書（英文ならibid.），前掲・・・（英文ならop.cit.）として、その後
に引用頁を付してください。

- (3) 引用文献は、文中で下記のようにしても構いません。

（例）

有名なコースの問題，すなわち「分業化された交換経済において，そもそも企業が現出し
てくるのはなぜであろうか」（Coase 1937, p. 355）

8. 引用文献

- (1) 書物名・雑誌名は，日本語・中国語等の場合は二重かぎ括弧（『 』），ヨーロッパ語ではイタリック，イタリック活字のない場合（たとえばロシア語）には二重山括弧（《 》）で表示してください。

- (2) 論文名は，日本語・中国語等の場合はかぎ括弧（「 」），ヨーロッパ語ではダブルクォーテーション（“ ”）で囲ってください。

- (3) 文献リストにおける文献の表記については，次節（10.文献表記の事例）に掲げる事例を参考にしてください。

- (4) 本文中に引用する場合も次節（10.文献表記の事例）にならってください。

- (5) 和文論文の文献表記は，参考文献の原典の原語を原則とします。英文論文の文献表記は，英語以外の参考文献も英語で表記することが望ましいです。その場合，原典の言語の種類を英語で付記してください。また，原典のローマ字表記を併記することもできる。発行年は全てアラビア数字で表記してください。

（例）

Chen, Yu (1998), *Ownership, Control and Incentive*, Shanghai Sanlian Publisher (in Chinese).

- (6) 和文論文において，参考文献を記載する場合，著作，論文を一括し，和文（五十音順），欧文（アルファベット順），その他（中国語など）言語別（各言語毎の慣例順）に掲げてください。英語論文において，参考文献を記載する場合，原則として英語でアルファベット順に列挙してください。ただし，

参考文献を原語で記載する場合は、欧文・和文・その他言語別に掲げてください。

9. 文献表記の事例

(1) 参考文献が日本語の場合

*単著

著者名(発行年)『書名』出版社名, 参考頁。

*共著

編者名(編)(発行年)『書名』出版社名, 参考頁。

*論文

著者名(発行年)「論文名」『論文掲載誌名』論文掲載巻号, 論文掲載頁。

注: 書名, 論文掲載頁は 1-10 頁のように表記してください。

(2) 参考文献が英語の場合

*単著

著者名(発行年), 書名, 出版社名, 参考頁。

*共著

編者名(編)(発行年), 書名, 出版社名, 参考頁。

*論文

著者名(発行年), “論文名,” 論文掲載誌名, Vol. ■, No. ■, 論文掲載頁。

(例)

Diamond, Peter (1965), “National debt in a neoclassical growth model,” *American Economic Review*, Vol.55, No.5, pp.1126-1150.

注: 著者名, 編者名は姓名の順で記し, 書名, 論文掲載誌名は斜体にしてください。

書名, 論文掲載頁は, pp.1-10 のように表記してください。

(3) 参考文献がその他の言語の場合

*単著

原語著者名(発行年)『原語書名』原語出版社名, 参考頁。

*共著

原語編者名(編)(発行年)『原語書名』原語出版社名, 参考頁。

*論文

原語著者名(発行年)「原語論文名」『原語論文掲載誌名』, 原語論文掲載巻号, 掲載頁。

注: 著者名, 編者名は, 原語の慣例順で表記し, 論文掲載頁は, pp.1-10 のように表記してください。

なお, 中国語の場合, 日本語と同字体の場合の日本語表記は不要です。

また, ハングルの場合, 漢字使用の著者名・出版社名の日本語表記は不要です。

10. 附記

下記のような附記については, 論文採用決定後に加筆してください。

例

- (1) 本論文の作成にあたり, ○○先生より貴重な助言を賜りました。ここに記して感謝を申し上げます。

- (2) 本論文は、△△学会で有益なコメントを戴いたものを、加筆修正したものである。感謝を申し上げたい。

1 1. 校正

- (1) 校正刷りでは、印刷上の誤りや不備を訂正することを主眼とし、原稿を改訂することはできません。
- (2) 原則として、執筆者校正は初校および2校までとし、3校以後は編集委員会にお委せください。
- (3) 校正刷りの段階で、大幅の訂正はできませんので、充分にご注意ください。